

TOTO

ホルダー

EWCP720型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

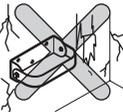
1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

表示	意味
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。

	は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「分解禁止」を示します。
	は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。

警告		
	浴室には使用しない 浴室は常に高温多湿の環境なため、ホルダーの機能を損ない、けがをするおそれがあります。	
	修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理・改造は行わない ホルダーの破損や脱落により転倒し、けがをするおそれがあります。	
	必ず強度のある壁・建築構造体に取り付ける 土壁・石こうボード壁などの強度のない壁に直接取り付けると、ホルダーが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	
	必ず同梱のねじ、または当社指定の固定金具を使用する 同梱のねじ、または当社指定の固定金具を使用しないと、ホルダーが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	

警告		
	十分な下地の厚さ、および補強があることを確認し、指定の取付方法で取り付ける 下地に十分な厚み・補強がなく、各下地の指定取付方法を守らないとホルダーが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	
	取り付け完了後、ホルダーにガタつきがないことを確認する ホルダーにガタつきがあると、ホルダーが外れたりボードが倒れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。	

2 取り付け前に

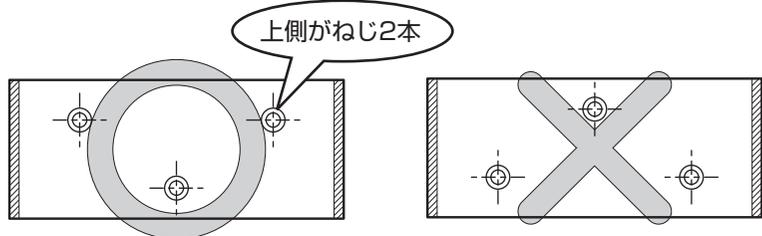
- 取り付け前の注意**
- ホルダーを取り付ける壁に **十分な強度がある** ことを確認してください。
 - 屋外や浴室など、水がかかったり湿気が多い場所には**取り付けない** てください。変色や変形のおそれがあります。
 - 固定方法は **建物の構造に応じて適切な方法を選んで** ください。
ホルダーには、木下地用の皿タッピンねじ(φ4.5×55)を同梱しています。コンクリート下地・コンクリートブロック下地、または軽量鉄骨下地(皿頭ドリルねじ(φ4×45)は同梱)の場合については別途固定金具を注文してください。固定金具必要セット数は「**3 固定金具(別売品)**」を参照してください。
※掲載以外の固定方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。

6-1

ホルダーの取り付け

取付方向の確認

ホルダーの上下には方向性があります。
ホルダーの取付穴の位置に注意して取り付けてください。

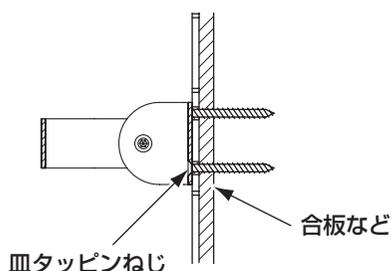


警告

ホルダーの上下を逆に取付けると、ホルダーがガタついたり、外れたりすることがあります。

木下地：皿タッピンねじ固定の場合

固定金具品番 同梱の皿タッピンねじをご使用ください。



- ① 事前にホルダー取付部に構造用合板 (JAS規格品) を取り付ける。**注1**
- ② 心出しをしたあと、 $\phi 3\text{mm}$ の皿タッピンねじの下穴を開ける。**注2**
(タイル壁の場合は、タイル部のみ $\phi 5.5\text{mm}$ の通し穴を開ける)
- ③ ホルダーの取付穴より皿タッピンねじで取り付ける。**注3**

注意

注1：厚み12mm以上の構造用合板(JAS規格品)または同等以上の下地材に取り付けてください。

注2： $\phi 3\text{mm}$ の下穴を開けることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

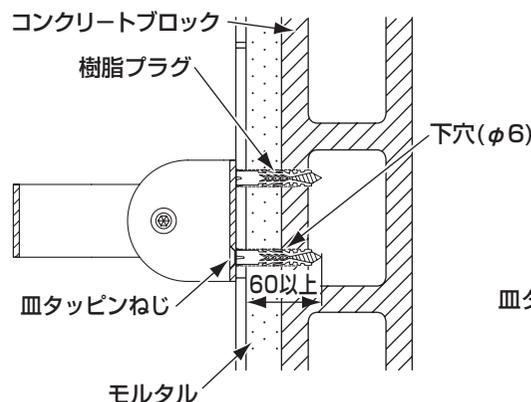
注3：皿タッピンねじを強く締めすぎて合板やタイルを割らないように注意してください。

コンクリートブロック下地・コンクリート下地：プラグ固定の場合

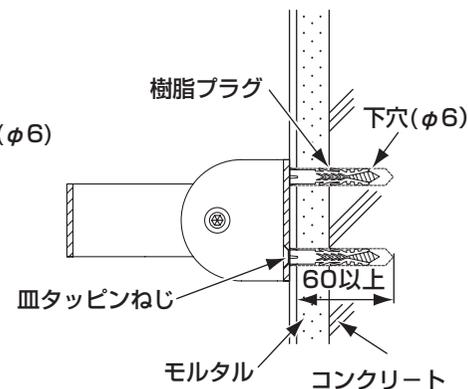
固定金具品番 T110D28、同梱の皿タッピンねじをご使用ください。

- ① 心出しをした後、 $\phi 6\text{mm}$ 、深さ60mm以上の樹脂プラグの下穴を開ける。**注1**
- ② 樹脂プラグを下穴に軽く打ち込む。
- ③ ホルダーの取付穴より皿タッピンねじで取り付ける。**注2**

コンクリートブロック下地の場合



コンクリート下地の場合



注意

注1：指定寸法の下穴を開けることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。

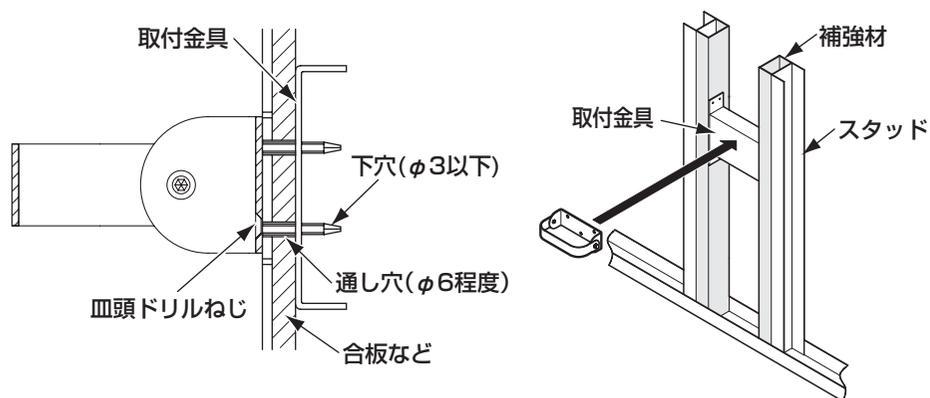
注2：皿タッピンねじを強く締めすぎて合板やタイルなどを割らないように注意してください。

軽量鉄骨下地：皿頭ドリルねじ固定の場合

固定金具品番 T110D37、同梱の皿頭ドリルねじをご使用ください。

- ①ホルダー取付位置を考慮し、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)に付属のドリルねじで固定する。 **注1**
- ②壁仕上げ後、手すりの心出しを行い、φ3mm以下のドリルで下穴をあける。 **注2**
- ③仕上げ壁部にφ6mm程度のドリルねじ通し穴をあける。
- ④ホルダーの取付穴に皿頭ドリルねじを通し、ホルダーを固定する。 **注3**

軽量鉄骨下地の場合



注意

- 注1：補強材の軽量鉄骨は、t2.3mm以上を使用してください。ホルダーが外れたり、壁が壊れたりすることがあります。
- 注2：ホルダーに傷を入れないために、下穴をあけた方が、施工がスムーズです。
- 注3：皿頭ドリルねじを強く締めすぎて合板やタイルなどを割らないように注意してください。

※他の施工方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。

点検項目

取付けが完了したあと、次の項目を確認してください。

ガタつきの確認

ホルダーにガタつきがないか確認してください。

ホルダーは壁にしっかり取り付けていますか？

➡ **6** 「ホルダーの取り付け」参照し、対応ください。

